

こども環境学会2025大会(高知)
メインパネルディスカッション2

「こどもまんなか社会」におけるインクルーシブな保育とこども環境
ー「はじめの100 か月の育ちビジョン」を手がかりにー

大豆生田 啓友
(玉川大学)

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン (はじめの100か月の育ちビジョン) 概要

令和5年12月22日 閣議決定

はじめの100か月の育ちビジョンを策定し全ての人と共有する意義

幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に
幸せな状態）の向上にとって最重要

✓誰一人取り残さないひとしい育ちの保障に向けては課題あり

※児童虐待による死亡事例の約半数が0～2歳/就園していないこどもは、家庭環境により、他のこどもや大人、社会や自然等に触れる機会が左右される

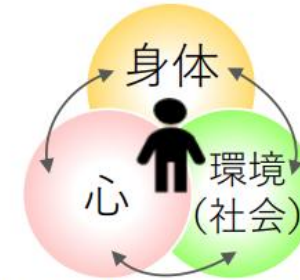
✓誕生・就園・就学の前後や、家庭・園・関係機関・地域等の環境間に切れ目が多い

⇒社会全体の認識共有×関連施策の強力な推進のための羅針盤が必要

目的

全てのこどもの誕生前から幼児期までの
「はじめの100か月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上

全てのこどもの生涯にわたる
身体的・精神的・社会的（バイオサイコソーシャル）
な観点での包括的な幸福



⇒全ての人のウェルビーイング向上にもつながる

こども基本法の理念にのっとり整理した5つのビジョン

1 こどもの権利と尊厳を守る

⇒こども基本法にのっとり育ちの質を保障

- ✓乳幼児は生まれながらにして権利の主体
- ✓生命や生活を保障すること
- ✓乳幼児の思いや願いの尊重

2

「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める

⇒乳幼児の育ちには「アタッチメント（愛着）」の形成と豊かな「遊びと体験」が不可欠



「アタッチメント（愛着）」＜安心＞
不安な時などに身近なおとなが寄り添うことや、
安心感をもたらす経験の繰り返しにより、安心の
土台を獲得

豊かな「遊びと体験」＜挑戦＞

多様なこどもやおとな、モノ・自然・絵本・場所など身近
なものとの出会い・関わりにより、興味・関心に合わせた
「遊びと体験」を保障することで、挑戦を応援

3 「こどもの誕生前」から 切れ目なく育ちを支える

⇒育ちに必要環境を切れ目なく構築し、
次代を支える循環を創出

- ✓誕生の準備期から支える
- ✓幼児期と学童期以降の接続
- ✓学童期から乳幼児と関わる機会

4

保護者・養育者のウェルビーイング
と成長の支援・応援をする

- ⇒こどもに最も近い存在をきめ細かに支援
- ✓支援・応援を受けることを当たり前に
 - ✓全ての保護者・養育者とつながること
 - ✓性別にかかわらず保護者・養育者が
共育ち

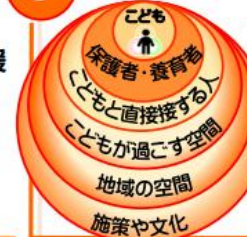
5

こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

⇒社会の情勢変化を踏まえ、こどもの
育ちを支える工夫が必要

✓「こどもまんなかチャート」の視点
(様々な立場の人がこどもの育ちを応援)

- ✓こどもも含め環境や社会をつくる
- ✓地域における専門職連携やコーディネーター
の役割も重要



【「はじめの100か月」とは】

本ビジョンを全ての人と共有するためのキーワードとして、母親の
妊娠期から幼保小接続の重要な時期（いわゆる5歳児～小1）まで
がおおむね94～106か月であり、これらの重要な時期に着目

はじめの100か月の育ちビジョンに基づく施策の推進

- ✓ こども大綱の下に策定する「こどもまんなか実行計画」の施策へ反映
- ✓ 全ての人の具体的行動を促進するための取組を含め、こども家庭庁が
司令塔となり、具体策を一体的・総合的に推進

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン

は じ め の
100 か 月 の
育 ち ビ ジ ョ ン

The First
100 Months of
Growth Vision



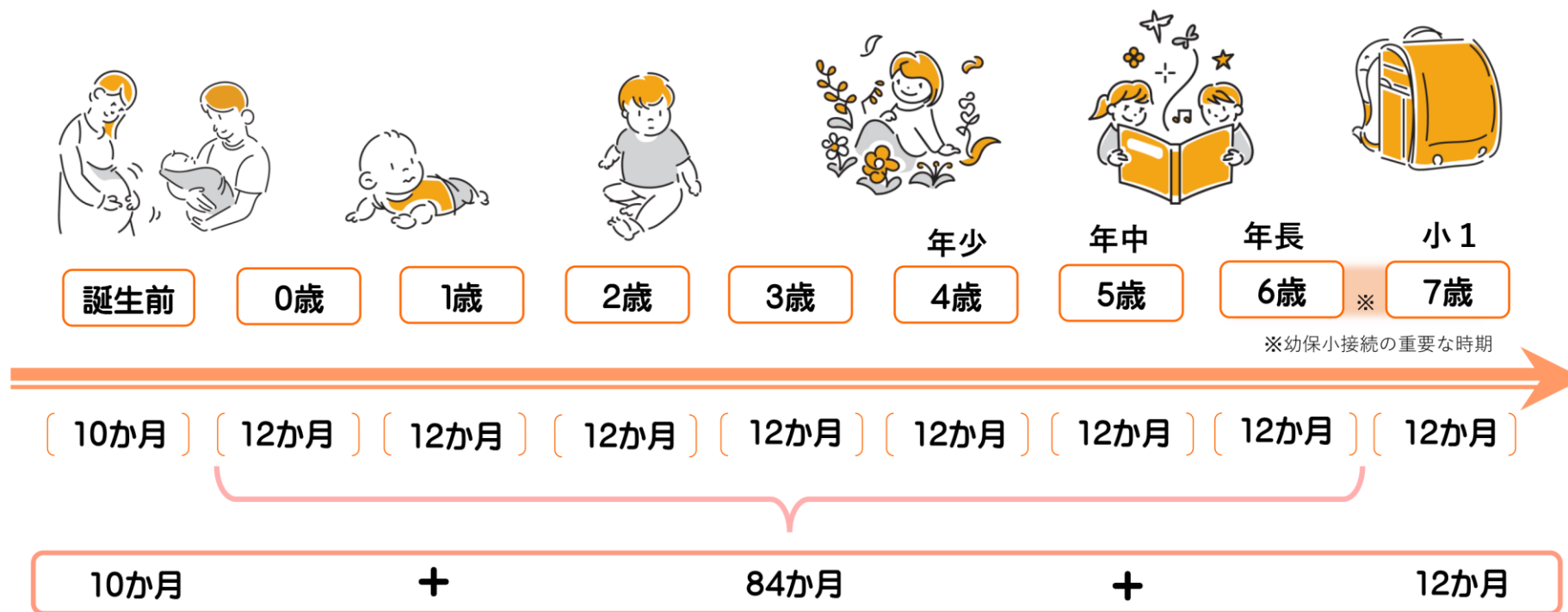
こどもまんなか
こども家庭庁

「はじめの100か月の育ちビジョン」とは？

- ✓ こどもの小学校1年生までの重要な時期に、一人一人が健やかに育つことができるよう、みなさんに大切にしてほしい考え方をまとめました。
- ✓ すべての人に「はじめの100か月の育ちビジョン」に共感してもらうことで、社会の考え方を変えていくきっかけをつくとともに、「羅針盤」が進むべき方向を指し示すように、国や自治体がどのような政策に取り組んでいくべきかを示す役割を果たします。



「はじめの100か月」とは？



- ✓ お母さんがこどもを妊娠してから、小学校1年生までが、だいたい100か月（※）。
- ✓ 長い人生において、人格の基盤を築く、はじめの重要な時期というメッセージが込められています。

※誕生月によって変動あり。94～106か月⇒概ね100か月。

「はじめの100か月の育ちビジョン」はなぜ必要？

「はじめの100か月」は、人生を幸せな状態（ウェルビーイング）で過ごすため、特に大切な時期です。

しかし、すべてのこどもがひとしく、健やかに育つことができるのかについては、課題があります。



生まれるとき、 園などに入るとき、 小学校に入るときや、 家庭、 園、 こどもについての関係機関、 地域

などの間に「切れ目」が多いため、

- ✓ 社会全体で幼児期までのこどもの育ちを支える共通した考え方を広め、
- ✓ 「はじめの100か月の育ちビジョン」に関連する取組を力強く進めていく、道しるべが必要です。

ウェルビーイングとは？



「はじめの100か月の育ちビジョン」では、
「幸せな状態」を
身体、心、それを取り巻く環境や社会の状況、
すべての面で良い状態にあることとして捉えており、
これを専門用語で「ウェルビーイング」と呼んでいます。

バイオサイコソーシャルとは？

人間は、「身体」や「心」、「周りの環境や社会」によって、形づくられています。

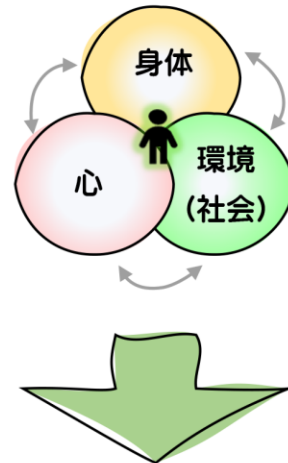
これら3つの状況を全体として見ることで、こどもがどのような状態にあるかを把握することができます。

● 身体的 (バイオ)

● 精神的 (サイコ)

● 社会的 (ソーシャル)

バイオサイコソーシャルな面で良い状態・幸せな状態



これらを保障することは、すべての人のウェルビーイング向上につながります。

何を大切に
するの？

幼児期までのこどもの育ちの **5** つのビジョン



- 0 1** こどもの権利と尊厳を守る
- 0 2** 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める
- 0 3** 「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える
- 0 4** 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする
- 0 5** こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す



こども基本法を踏まえて、権利や尊厳を守る



✓ 乳幼児は生まれながらに権利をもっている

すべての乳幼児が大切に育てられている。



✓ 乳幼児の生命や生活を保障する

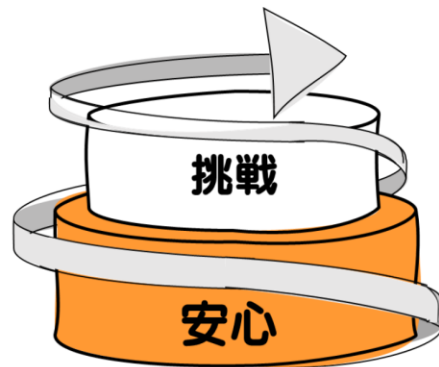
どんな環境や状況にあっても、生命・健康・衣食住などが守られている。



✓ 乳幼児の思いや願いを尊重する

乳幼児は、言葉だけでなく、様々な形で思いや願いを表現。
一人一人のペースに応じて、それらが尊重されている。

乳幼児の育ちには、 「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切



豊かな遊びと体験



様々な人や自然・絵本などの環境と出会い、興味・関心に
応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」



アタッチメント（愛着）

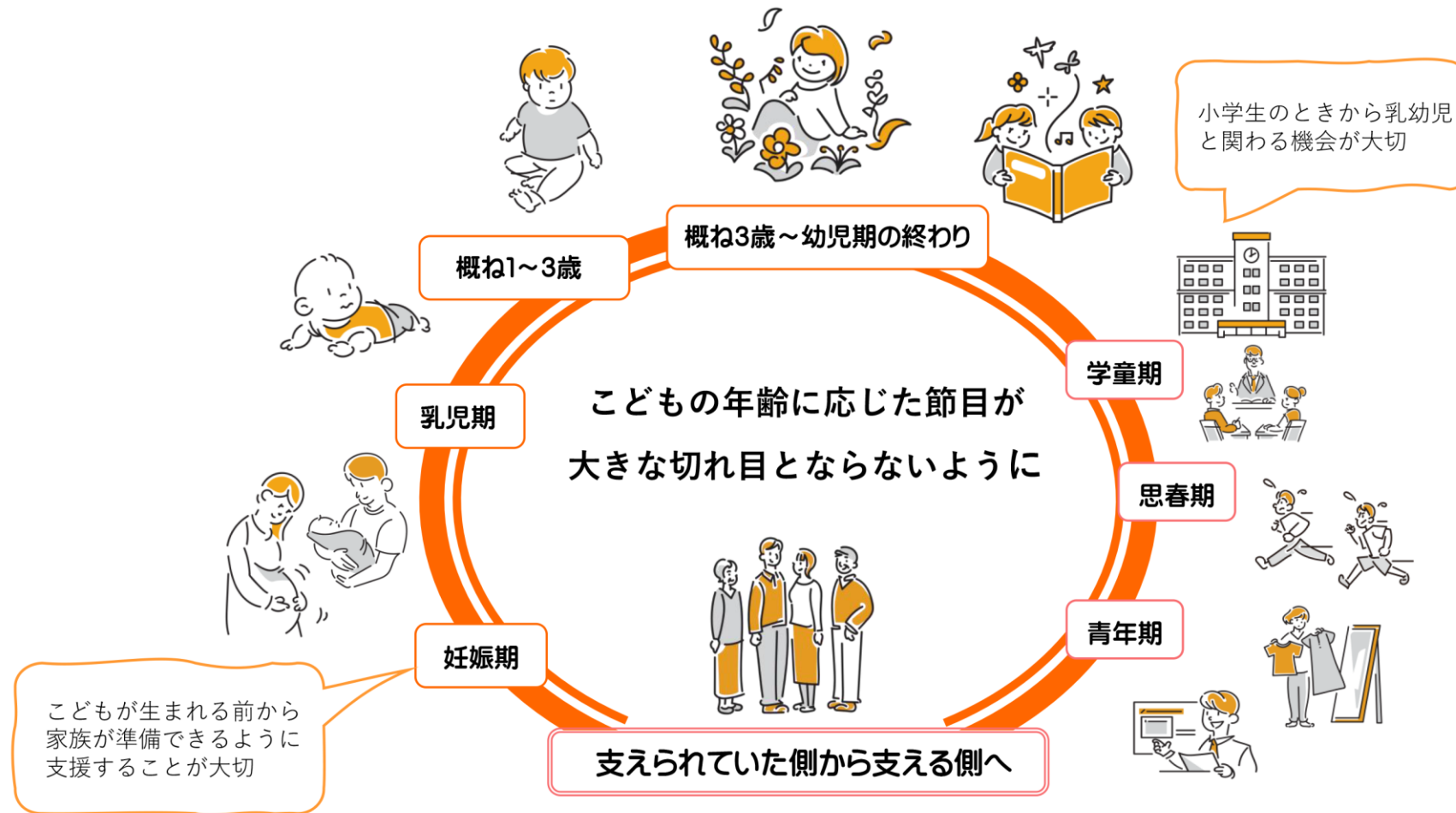


こどもが不安なときなどに身近な大人が寄り添うことや、安心感
をもたらす経験を繰り返すことが、「安心」という土台を築く

03

「こどもの誕生前」
から切れ目なく
育ちを支える

育ちの環境を切れ目なくつくり上げ、 次世代を支える好循環をつくる



こどもを育てる、**保護者や養育者を支える**



✓ 支援・応援を受けることを当たり前に

保護者や養育者が幸せな状態（ウェルビーイング）であり、親として成長できるよう、支援・応援は不可欠。



✓ すべての保護者やこどもとつながること

すべての保護者やこどもが必要な支援につながるよう、接点づくりなどの工夫が欠かせない。



✓ 保護者・養育者がこどもと「共育ち」

保護者や養育者自身も、「こどもとともに育っていく」という視点が大切。

すべての人や環境を活かし、 オールジャパンでこどもの育ちを支える



これからは、保護者・養育者だけでなく、地域社会の全体でこどもを育てる時代。
みんながそれぞれの立場で、子育ての主役に。